豪雪の記憶を寄贈します

中山小・卒業記念制作版画

２０１０年の大みそかから県西部を襲った豪雪。国道９号の琴浦―大山町区間で約１、０００台の車が、最長42時間間立ち往生しました。災難に見舞われたドライバーらに、温かい食事を提供したり、公民館を開放したりするなど、沿線住民が自発的に行った豪雪の中での心あたたまるエピソードを忘れまいと、中山小学校２０１２年度の卒業生48人（現在中学１年生）が、卒業記念に版画として制作しました。

作品は畳一畳分ほどの大きさ。立ち往生した車をみんなで押し出す様子や、豪雪での出来事を当時の６年生が劇で披露している様子などを題材にし、３か月かけて完成させました。

版画は、中山温泉・生活想像館に常設展示されることになり、４月９日（火）に寄贈を記念して除幕式が行われました。除幕式には、11年度・12年度の中山小学校卒業生、保護者など約１５０人が出席。中山地区人権同和教育推進協議会会長の金田吉人さんが「この作品には、地域のやさしさがぎゅっと詰まっている。地域にとって、すばらしい宝物になる」と謝辞を述べられました。

◀版画をぜひご覧ください

テメキュラ市から中学生が４年ぶりの訪問

３月24日から４月１日の９日間、姉妹都市交流を行っている米国・テメキュラ市から、中学生と高校生の訪問団５名が、大山町を訪れました。

滞在中は、町内の家庭にホームステイし、日本の生活や文化を体験しました。日本の家族と一緒に生活することで、たくさんの日本語に触れることができるので、滞在期間が終わる頃には、来日したときよりもさらに日本語を覚えることができたようです。

また、スポーツ交流は言葉が通じなくても一緒に楽しむことができます。スポーツ交流をしたあとの写真は、本当に楽しそうないい笑顔があふれていました。

スポーツ交流の日は、ホストファミリーが作ってくれたお弁当で昼食。中学校のランチルームでお弁当を楽しみました。日本の学校生活の雰囲気を感じてもらえたと思います。

これからも交流を続けて、お互いの理解を深めていきたいです。

▲スポーツは交流を深める近道です。（大山中学校体育館）

▲マルガリータミドルスクールから各中学校にアートが贈られました。

▲いろいろなお弁当があって、とても楽しそうでした。